

性別受容と学校内での性役割期待が中学生の自尊感情に及ぼす影響

吉田奈央

中学生の学校適応を考える上で自尊感情は重要な指標であるが、自尊感情は思春期に一時的に低下すること、また自尊感情には性差があることが知られている。自尊感情の性差を説明する要因として、先行研究では性別受容や性役割期待が挙げられているが、これらが中学生の自尊感情へどのような影響を及ぼしているのかを実証的に明らかにした研究は少ない。よって、本研究では、中学生の性別受容と、学校内で性役割期待を向けられたか否かという認識(以下、性役割期待認知) および性役割期待を向けられた際の感情が、自尊感情に与える影響を検討することを目的とした。

中学校1～3年生を対象に、性別受容、性役割期待認知の有無、認知がある場合はその際の感情、自尊感情について尋ねる質問紙調査を実施し、508名(平均年齢13.63歳、 $SD = 0.87$)からの有効回答を得た。

各変数について検討したところ、自尊感情については、男子よりも女子の方が低く、その他の性別では、より低くなることが示された。性役割期待については、女子では性役割期待認知がある者が多く、男子では性役割期待認知がある者が少ないことが示された。その他の性別では、性役割期待認知がある者が多いことが明らかになった。また、性役割期待を受けた時についての記述をカテゴリー分けしたところ、教師が生徒に求める模範的な姿を示した際に、生徒は性役割期待を向けられたと感じていることが特に多いと明らかになった。性別受容については、男子では、自らの性別を受容している生徒がより多く、女子・その他の性別では、受容していない生徒がより多いことが示された。分散分析の結果、自らの性別を受容している者は、受容していない者よりも、自尊感情が高くなることが示された。また、性役割期待を向けられたと認知している者は、認知していない者よりも自尊感情が低くなることが示された。しかし、性役割期待認知がある者のみを抽出して、性役割期待を向けられた際の感情について分析を行ったところ、肯定的な感情を抱いている者は、否定的な感情を抱いている者よりも自尊感情が高いことが示された。

以上の結果から、中学生の性別受容と性役割期待認知には性差があること、そして性別受容と性役割期待の双方が自尊感情に影響を及ぼしていることが明らかになった。中学生の自尊感情の低下を防ぐためには、中学生の身体に起こる変化について正しい知識を伝えることや、生徒の葛藤について把握し共感的な理解を示すことなどを通して、身体的変化への戸惑いを軽減することが有効であると考えられる。加えて、教師が生徒に、物事に取り組む好ましい姿勢や相応しい行動を示す際に、性別に関する表現を用いないことが有効であると示唆された。